



あらゆる賞賛は、アッラーのもの。アッラーは、比べ得る何ものもない唯一者であられる。私は、アッラーの外に崇拝する存在はないことを証言し、また、ムハムマドは、アッラーの使徒であることを証言する。

信者たちよ。アッラーは、クルアーン・ユヌス章及びビザンチン章において述べておられる。

「誠に、夜と昼との交替、また、アッラーが天と地の間に創られるあらゆるものの中には、主を畏れる者への印がある。」(10章 6節)

「それで、夕暮に、また、暁に、アッラーを讃えなさい。」「天においても地にあっても、栄光は、その御方に属する。午後遅くに、また、日の傾き始めに (アッラーを讃えなさい)。」(30章 17-18節)

アッラーは、しもべ、即ち、人々に対して、タスビーフィ (アッラーを賛美する言葉) により、完全な威力を御持ちの御方、アッラーを讃えなさいと奨励しておられる。タスビーフというものは、アッラーの偉大さを讃えることで究極の御方であることを言葉で表明するものである。静まり返った夜遅くとか、寝静まった早朝とかが、タスビーフに適した時間である。預言者さま SAW の妻の一人ジュワイリヤは、早朝礼拝を終えた時、近くを通りかかれた預言者さま SAW から次の言葉を唱えるよう教えられたという。「創造物の数の多さ故にアッラーを讃美します。」「御自身の恩寵深さの故にアッラーを讃美します。」「玉座の威厳さ故にアッラーを讃美します。」「御言葉を記録するため使われるインクの故にアッラーを讃美します。」

アッラーは、クルアーン・イムラーン章において述べておられる。

「…主よ。あなたさまは、十分なお考えもなく、これを御創りになったのではないのです。あなたさまの栄光を讃えます。…」(3章 191節)

アッラーは、天と地を創造なされ支配される。それは、よく仕上がっており、鳥が羽を広げて飛ぶことができる。

アッラーは、クルアーン・夜の旅章及び御光章において述べておられる。

「…何ものも、その御方を讃えて唱念しないものはない。だが、お前たちは、それらが如何に唱念しているかを理解しない。誠に、その御方は、忍耐強く寛容であられる。」(17章 44節)

「(使徒よ。) あなたは、天地の間の全てのものが、アッラーを讃えるのを見ないのか。羽を拡げて飛ぶ鳥も、皆それぞれに礼拝と唱念を心得ている。アッラーは、それらの行っていることを知っておられる。」(24章 41節)

アッラーは、預言者さま SAW に対して夜に昼にタスビーフを唱えなさいと教えられた。

アッラーは、クルアーン・ターハー章において述べておられる。

「…(使徒よ。) 太陽が上がる前、また、それが沈む前に、あなたの主の栄光を讃えなさい。更に、夜の一時も、また、昼の両端にも讃えなさい。きっと、お前たちは、満たされるであろう。」(20章 130節)



アッラーは、信者各々に対して、夜に昼にタスビーフを唱えなさいと教えておられる。

アッラーは、クルアーン・部族連合章において述べておられる。

「信者たちよ。アッラーを常に唱念しなさい。」「朝な夕な、その御方の栄光を讃えなさい。」(33章 41-42節)
タスビーフの言葉は、どれもアッラーがとても愛される言葉である。そして、タスビーフの言葉は、どれも唱える者自身を高め、良い方へと向ける。アブー・ザッルは伝えている。アッラーの御使いSAWは、「アッラーが天使たちやしもべたちのために選ばれたのは、『スプハーナッラー・ワ・ビハムディー (アッラーこそ讃美されるべき御方。讃えられるべき御方。)]』という言葉です。」と言われた。また、預言者さまSAWは、辛いことやわだかまりから解放されたければ、『スプハーナッラー (タスビーフ) を 33 回、アルハムドリッラー (タフミード) を 33 回、そしてアッラーフ・アクバル (タクビール) を 34 回、ベッドに横たわる前に唱えなさい。」と言われた。

預言者ムハムマド、教友とその一家に祝福と平安がありますように。そして、正当なカリフ、アブーバクル師、ウマル師、ウスマーン師、アリー師と、正しい道に従う者たちに、祝福と平安がありますように。

アッラーよ。夜に昼に、床に就く前にタスビーフを唱える者であるように御導き下さい。

アッラーよ。あなたさまを愛し、預言者さまSAWを愛する者であるように、御導き下さい。

アッラーよ。何時でもあなたさまを顧みて感謝し、満足を知る者であるように、御導き下さい。

アッラーよ。正しい道を歩む忍耐強い者であるように、御加護下さい。

アッラーよ。私たちの信仰心を強くして下さい。私たちの過ちを御赦し下さい。

アッラーよ。日々の生活に活力と喜びを、そして安心と安全を御与え下さい。アーミーーン